

工事の げんば 現場より

亭榭保存修理事業

今はこんな様子だよ。



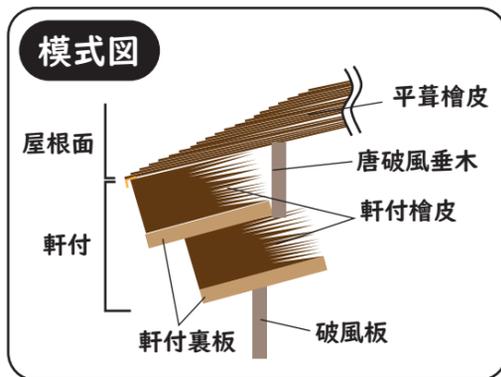
8月4週目

ひわだぶきやねふきかえ
檜皮葺屋根の葺替作業が暑い中黙々と進められています。今回は二重の軒付取替まで含めた全面
ふきかえ
葺替、しかも四方唐破風という特殊な形ゆえ、屋根全体は小さいながらも各所に技巧が求められる
てま
手間のかかる作業です。まずは軒付、唐破風の特徴である緩やかな「てり起り」の曲線を美しく仕
上げるのが腕の見せどころ。軒付裏板は1.8cmもの厚みがありますが、緩やかな曲線に合わせて曲
げる材料で、うまく形を作りながら止めていきます。厚みのある檜皮の軒付はぎっしりと詰まり、
見上げた時の軒の重厚さが際立つ形に作り上げられました。



のきづけ
軒付（ここでは二段
になっているので
にじゅうのきづけ
「二重軒付」）

「軒付」は屋根の軒を形作る
かしょあまじまい
箇所。雨仕舞にはほぼ影響
がなく、下から屋根を見上
げた時に目につく箇所なの
で、装飾的な意味合いが強
いです。



うらいた
▲裏板施工状況。厚い板が破風の形に合わせて曲線を成してい
ます。板の材料はしなやかな性質をもつ樅、さらに曲げやす
いように繊維の方向を意識して加工されています。



いちじゅうにじゅうひわだ
▲一重・二重の檜皮
のきづけ
軒付施工状況。短
く加工した軒付用
のひわだ
檜皮を、ぎっし
り詰めて押し付け
ながら重ね、釘で
くぎ
止めていきます。



▲ぎっしり積み重ねた軒付檜皮は、「ちょんな（ちょうな・手斧）」
と呼ばれる道具で綺麗に切り整えられます。切り整えられた断
めんととの
面はミルフィーユのような美しさが見どころ。完成の暁には是
ぜ
非見上げてみてください。